

大袋白髭神社本殿

大袋白髭神社本殿は、室町時代の永禄年間（一五五八～一五七〇）の創建と伝わっています。

本殿は覆屋内の切石積基壇上に立つ、一間社の入母屋造です。屋根は木瓦葺で、千鳥破風と軒唐破風を付けています。江戸時代末期に流行した江戸彫りを多用する本殿の一つですが、入母屋造は珍しく、架構（木組み）・彫刻はきわめて密度が高く、質もいい建築です。

特に目立つのは、身舎の正面扉を含めた壁面と脇障子の彫刻です。正面の棧唐戸は、棧で区画された格間いっぱいには花木の浮き彫りを、両脇壁にも扉より少し立体的な丸彫りの花木を飾っています。浮き彫りを施した棧唐戸は、桃山建築を思わせます。壁面の彫刻は、背面が天岩戸開、左側面が素戔鳴尊のヤマタノオロチ退治、右側面が源頼政のヌエ退治で、いずれも登場人物の性格をよく表し、動きに富み、神話・説話の名場面を表現しています。左脇障子の彫刻は、獅子の子落とし、右脇障子は唐獅子と牡丹で、縁の下などにも獅子・麒麟などの霊獣の彫刻が透き間なくあります。また、本殿正面の木階裏の目に付きにくいわずかな所にも、今にも飛び出しそうな虎が潜んでいます。



大袋白髭神社本殿

基壇側面に慶応四年（一八六八）の年紀があり、本殿の造営もこのころと考えられます。残念ながら大工名・彫工名を知ることはできませんが、川越を代表する江戸彫の本殿といえます。

どんぐり

編集後記

2月7日・8日に、(社)日本広報協会が主催する横浜セミナーに行ってきました。全国から広報担当者およそ200人が集い、見出しの作り方や広報にかかわる法令などの講義を受けました。市町村の数だけ広報紙はあり、同じ内容でも記事の扱い方から表現の方法まで実にさまざま。共通しているのは、行政からのお知らせを多くの方に読んでもらうためのくふうをしていることです。ほかの市町村の広報も参考に、市民の皆さんに伝わりやすい「広報川越」を作りたいと考えています▶2月9日から10日にかけて、市内で3度目の積雪になりました。雪が降っている間はスギの花粉が飛ばないので、花粉症の私は少しうれしくなります。でも、寒いのはやっぱり苦手。暦の上だけでなく、暖かい春が待ち遠しくなってきました。(YA)

世界の国から、こんにちは！



フィリピン／高橋エステリアさん

首都のマニラから北へ車で6時間、サン・フェルナンドが私のふるさとです。水田が多く、米作りが盛んな所です。また、タバコの葉も栽培されていて、子どものころ近所に、たばこの工場があったことを覚えています。

日本に来て22年たちました。川越に住んでまだ2年ほどですが、住む前から仕事の関係で川越には来ていて、南古谷駅周辺が変わったことに驚きました。

実は、テレビの時代劇が好きなんです。きれいな着物や侍が出てくる、日本的なところが好きです。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13ページ・15ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506